

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2015-100330

(P2015-100330A)

(43) 公開日 平成27年6月4日(2015. 6. 4)

(51) Int.Cl.
A23L 1/10 (2006.01)F1
A23L 1/10テーマコード (参考)
4B023

審査請求 未請求 請求項の数 4 O L (全 11 頁)

(21) 出願番号 特願2013-245052 (P2013-245052)
(22) 出願日 平成25年11月27日 (2013. 11. 27)(71) 出願人 591154751
鈴木 允
大阪府寝屋川市八幡台11-29
(71) 出願人 598157096
鈴木 栄一
大阪府寝屋川市八幡台11-29
(74) 代理人 100066728
弁理士 丸山 敏之
(74) 代理人 100141841
弁理士 久徳 高寛
(74) 代理人 100119596
弁理士 長塚 俊也
(74) 代理人 100100099
弁理士 宮野 孝雄

最終頁に続く

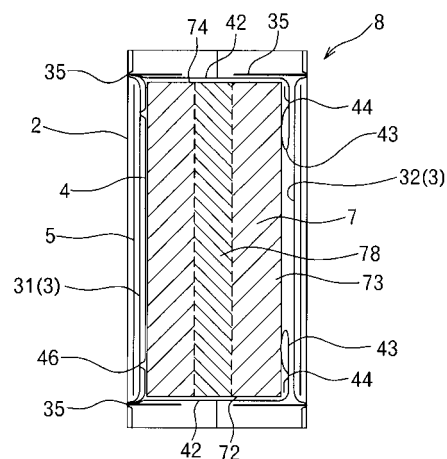
(54) 【発明の名称】 包装シート及び棒状包装飯塊

(57) 【要約】 (修正有)

【課題】縦置きしたときに、棒状飯塊が垂れ難い包装シート及びこの包装シートで棒状飯塊を包装してなる棒状包装飯塊を提供する。

【解決手段】棒状飯塊7の周面73を包み、矩形のフィルムを含むシート本体3と、前記シート本体3の側端縁より幅方向内側に熱溶着44され、前記棒状飯塊7の端面を覆う被せフィルム4と、を具えた包装シートであって、前記被せフィルム4の先端には、前記被せフィルム4を折り曲げて構成される垂れ止め43を具える。

【選択図】図6



【特許請求の範囲】

【請求項 1】

棒状飯塊 7 の周面 7 3 を包み、矩形のフィルムを含むシート本体 1 1 と、
前記シート本体 1 1 の側端縁より幅方向内側に熱溶着 4 4 され、前記棒状飯塊 7 の端面を覆う被せフィルム 4 と、
を具えた包装シートであって、
前記被せフィルム 4 の先端には、前記被せフィルム 4 を折り曲げて構成される垂れ止め 4 3 を具える、
ことを特徴とする包装シート。

【請求項 2】

前記垂れ止め 4 3 は、前記被せフィルム 4 の先端を折り曲げ、重なった被せフィルム 4 どうしを熱溶着 4 4 することで、環状に形成される、
請求項 1 に記載の包装シート。

【請求項 3】

前記シート本体 1 1 は、矩形の外フィルム 2 と内フィルム 3 との間にシート状食品 5 を挟み、前記外フィルム 2 と前記内フィルム 3 を前記シート状食品 5 の周縁にて熱溶着して形成される、
請求項 1 又は請求項 2 に記載の包装シート。

【請求項 4】

請求項 1 乃至請求項 3 の何れかに記載の包装シート 1 によって棒状飯塊 7 を包装してなる棒状包装飯塊であって、
前記垂れ止め 4 3 が前記棒状飯塊 7 の周面 7 3 と当接するように、前記被せフィルム 4 で前記棒状飯塊 7 の端面 7 2, 7 4 を覆い、前記シート本体 1 1 を前記棒状飯塊 7 に巻き付けて包装される、
ことを特徴とする棒状包装飯塊。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は、棒状飯塊を包装する包装シート及び棒状飯塊を包装シートで包装した棒状包装飯塊に関するものである

【背景技術】

【0002】

棒状の飯塊を包装シートで包装してなる棒状包装飯塊が知られている。

出願人は、外フィルム、海苔などのシート状食品及び内フィルムからなるシート本体と、シート本体の側縁から突設され棒状飯塊の端面を覆う被せフィルムからなる包装シートを提案している（例えば、特許文献 1 参照）。

棒状飯塊は、内フィルムの長手方向に略直交するように載せ、被せフィルムで棒状飯塊の端面を覆い、シート本体を巻き付けることで包装される。

【0003】

棒状包装飯塊は、販売等の際に陳列台に横置きして陳列されている。しかしながら、横置きすると、陳列スペースに限りがあるから棒状包装飯塊どうしを積み重ねざるを得ず、下側の棒状包装飯塊が押されて変形したり、棒状包装飯塊を取ろうとしたときに崩れてしまうことがある。また、陳列台が濡れている場合には、シート状食品が湿ってしまうことがある。

【0004】

そこで、棒状包装飯塊を陳列の際に縦置きとすることが望まれる。これにより、上記問題を解決できると共に、棒状飯塊に入れられた具材を視認することができる。

【先行技術文献】

【特許文献】

【0005】

10

20

30

40

50

【特許文献 1】 実用新案登録第 3 1 7 4 9 3 8 号公報

【発明の開示】

【発明が解決しようとする課題】

【0006】

しかしながら、棒状包装飯塊を縦置きすると、棒状飯塊が下方に垂れてしまう。棒状飯塊が垂れると、見栄えが悪いだけでなく、包装を解く際にシート状食品が上手く棒状飯塊に被さらなくなることがある。

【0007】

本発明の目的は、縦置きしたときに、棒状飯塊が垂れ難い包装シート及びこの包装シートで棒状飯塊を包装してなる棒状包装飯塊を提供することである。

10

【課題を解決するための手段】

【0008】

上記課題を解決するために、本発明の包装シートは、
棒状飯塊 7 の周面 7 3 を包み、矩形のフィルムを含むシート本体 1 1 と、
前記シート本体 1 1 の側端縁より幅方向内側に熱溶着 4 4 され、前記棒状飯塊 7 の端面を覆う被せフィルム 4 と、
を具えた包装シートであって、
前記被せフィルム 4 の先端には、前記被せフィルム 4 を折り曲げて構成される垂れ止め 4 3 を具える。

【0009】

20

前記垂れ止め 4 3 は、前記被せフィルム 4 の先端を折り曲げ、重なった被せフィルム 4 どうしを熱溶着 4 4 することで、環状に形成されることが望ましい。

【0010】

前記シート本体 1 1 は、矩形の外フィルム 2 と内フィルム 3 との間にシート状食品 5 を挟み、前記外フィルム 2 と前記内フィルム 3 を前記シート状食品 5 の周縁にて熱溶着して形成することができる。

【0011】

また、本発明の棒状包装飯塊は、
上記記載の包装シート 1 によって棒状飯塊 7 を包装してなる棒状包装飯塊であって、
前記垂れ止め 4 3 が前記棒状飯塊 7 の周面 7 3 と当接するように、前記被せフィルム 4 で前記棒状飯塊 7 の端面 7 2, 7 4 を覆い、前記シート本体 1 1 を前記棒状飯塊 7 に巻き付けて包装される。

30

【発明の効果】

【0012】

本発明の包装シート 1 は、被せフィルム 4 の先端の垂れ止め 4 3 は、折り曲げることで二重となっているので、分厚く構成される。従って、この包装シート 1 で棒状飯塊 7 を包装すると、垂れ止め 4 3 が棒状飯塊 7 の周面 7 3 に緊密に当接する。従って、本発明の包装シート 1 により包装した棒状包装飯塊 8 は、棒状包装飯塊 8 を縦置きしても、棒状飯塊 7 が下方に垂れてしまうことを防ぐことができ、棒状包装飯塊 8 の見栄えを維持できる。また、包装を解く際にも棒状飯塊 7 が垂れていないので、シート本体 1 1 にシート状食品 5 を含む場合には、上手くシート状食品 5 を棒状飯塊 7 に巻き付けることができる。

40

【0013】

また、垂れ止め 4 3 を熱溶着して環状とすることで、折り曲げた部分に空気が入り、垂れ止め 4 3 にさらに厚みを持たせることができるから、棒状飯塊 7 への密着性を高めることができ、棒状飯塊 7 の垂れをより効果的に防ぐことができる。

【0014】

本発明の包装シート 1 は、被せフィルム 4 の先端を折り曲げているだけで、棒状飯塊 7 の端面 7 2, 7 4 に当たる被せフィルム 4 は二重にはなっていないので、棒状包装飯塊 8 を端面 7 2, 7 4 側から見たときに、棒状飯塊 7 の具材等の視認性を阻害することはない。

50

【図面の簡単な説明】

【0015】

【図1】図1は、本発明の一実施形態に係る包装シートを内フィルム側から見た分解斜視図である。

【図2】図2は、内フィルムと被せフィルムを溶着した状態を示す斜視図である。

【図3】図3は、本発明の一実施形態に係る包装シートに棒状飯塊を載せた状態を示す斜視図である。

【図4】図4は、図3の線A-Aに沿う包装シートの断面図である。

【図5】図5は、本発明の一実施形態に係る包装シートで棒状飯塊を包装してなる棒状包装飯塊を縦置きした状態を示す側面図である。

【図6】図6は、図5の線C-Cに沿う棒状包装飯塊の断面図である。

【図7】図7は、包装シートを展開している状態を示す斜視図である。

【図8】図8は、図7の後、一方の包装シートを引っ張ってシート状食品の一部を露出させた状態の斜視図である。

【図9】図9は、図8の後、残る包装シートを引っ張り、シート状食品を棒状飯塊に巻き付けている状態を示す斜視図である。

【発明を実施するための最良の形態】

【0016】

本発明は、棒状包装飯塊8を縦置きしたときに、棒状飯塊7が包装シート1から垂れ落ちることを防止できるようにしたものである。

以下、本発明の一実施形態について図面を参照しながら説明する。

【0017】

本発明の包装シート1は、図1に示すように、外フィルム2と内フィルム3との間に、シート状食品5を挟んで構成されたシート本体11、棒状飯塊7(図4参照)の端面72, 74を覆う被せフィルム4を熱溶着して構成される。なお、本実施形態においては、シート本体11は、外フィルム2、シート状食品5及び内フィルム3から構成しているが、シート状食品5が不要である場合には、外フィルム2のみとしてもよい。

【0018】

外フィルム2は、図1に示すように矩形のフィルムを例示できる。外フィルム2は、長手方向に対して直交する幅方向に、外フィルム2を幅方向に沿って分断することのできる分断可能部21が形成されている。分断可能部21として、ミシン目の如き断続的な切条23を形成したもの、外フィルム2の内面(シート状食品5側)にカットテープを貼着や熱溶着したもの、幅方向に容易に切断できる方向性フィルムを用いたものなどを例示することができる。なお、分断可能部21として、ミシン目の如き断続的な切条23を採用する場合、図1に示すように、切条23から湿気や異物が混入することを防ぐために、切条を覆う細幅のフィルム24を分断可能部21に沿って熱溶着等しておくことが望ましい。

【0019】

シート状食品5は、海苔を例示でき、その他、シート状に形成された昆布やおぼろ昆布、鰯など、薄手の食品であれば特に限定されるものではない。

【0020】

シート状食品5は、後述するとおり、外フィルム2と内フィルム3とを熱溶着35したときに、その熱溶着35よりも内側に配置される大きさに形成される。より具体的には、シート状食品5の幅は、棒状飯塊7の長さと略一致し、その長さは、少なくとも棒状飯塊7を一周する。図示の実施形態では、シート状食品5は10cmの幅である。

【0021】

内フィルム3は、矩形の2枚のフィルム片31, 32から構成することができ、外フィルム2の分断可能部21の上で重なるように形成される。なお、内フィルムのフィルム片31, 32どうしの重なり部分は単に重なっているだけでもよいし、簡単に剥離するようスポット的に熱溶着を施してもよい。また、内フィルム3は、1枚のフィルムから構成し、外フィルム2の分断可能部21と重なる位置にミシン目の如き断続的な切条を形成し、

10

20

30

40

50

分断可能となったものであってもよい。なお、ミシン目の如き断続的な切条を採用する場合、切条から湿気や異物が混入することを防ぐために、切条を覆う細幅のフィルムを切条に沿って熱溶着等しておくことが望ましい

【0022】

本実施例では、内フィルム3を構成するフィルム片31, 32は、外フィルム2の分断可能部21上で重なり部を有すると共に、重ねた状態でフィルム片31, 32は、長さ方向の端縁が外フィルム2の端縁に略一致するよう形成している。

【0023】

被せフィルム4は、図1乃至図3に示すように、内フィルム3の側端縁よりも幅方向内側に熱溶着46され、内フィルム3から幅方向にはみ出したはみ出し部42, 42を有している。はみ出し部42, 42の先端は、折り曲げられて垂れ止め43, 43を形成している。垂れ止め43の折り曲げ方向は内外の何れでも構わない。なお、図示では、はみ出し部42, 42の両方に垂れ止め43, 43を形成しているが、棒状包装飯塊8を縦置きにする向きが決まっている場合には、下側となるはみ出し部42にのみ垂れ止め43を形成すればよい。

【0024】

はみ出し部42, 42は、棒状飯塊7を包装したときに、棒状飯塊7の端面72, 74を覆い、垂れ止め43, 43が、棒状飯塊7の周面73まで届く大きさとする。

【0025】

垂れ止め43は、図1乃至図4に示すように、はみ出し部42を折り曲げた後、重なった部分を熱溶着44し、環状に形成することが望ましい。これにより、垂れ止め43の内部に空気が入り、垂れ止め43に厚みを持たせることができる。熱溶着44は、空気の漏れを抑えるために線溶着とすることが好適であるが、1又は複数の点溶着であってもよい。また、熱溶着44に代えて、接着等しても構わない。

【0026】

被せフィルム4は、図2及び図3に示すように、棒状飯塊7への巻き始め端12となる内フィルム3のフィルム片31に予め熱溶着46, 46により接合することができる。熱溶着46, 46は、図示の例では線溶着であるが、1又は複数の点溶着であってもよい。

【0027】

予め内フィルム3と被せフィルム4を熱溶着46, 46する場合、これらの間隔は、シート状食品5の幅や棒状飯塊7の長さよりも短くする。これは、外フィルム2と内フィルム3を次工程にて熱溶着35する際に、熱溶着46と熱溶着35が重ならないようにするためである。

【0028】

次工程において、被せフィルム4を熱溶着35によって外フィルム2及び内フィルム3と一体に熱溶着35する場合には、熱溶着46, 46は省略できる。しかしながら、この場合であっても、予め被せフィルム4を内フィルム3に熱溶着46しておくことで、被せフィルム4を内フィルム3と一体に扱うことができる利点がある。

【0029】

図示の実施形態では、被せフィルム4は、1枚のフィルムから形成しているが、被せフィルム4は2枚のフィルムから構成することもできる。この場合、夫々の被せフィルム4は、はみ出し部42, 42の先端に垂れ止め43が位置するように内フィルム3に熱溶着46すればよい。

【0030】

被せフィルム4を接合した内フィルム3（図2）と、外フィルム2の内側にシート状食品5を載置し、図3及び図4に示すように、シート状食品5の周縁に沿って、外フィルム2と内フィルム3とを連続的に又は断続的に熱溶着35等により接合する。本実施形態においては、熱溶着35は、被せフィルム4にも施している。

【0031】

接合された外フィルム2の長手方向端部には、図3に示すように、巻き始め端12とは

10

20

30

40

50

逆側の巻き終わり端 1 4 に、包装後に包装シート 1 を止着するシール部材 6 が貼着される。シール部材 6 は、外フィルム 2 と対向する面に糊などの接着剤が塗布されており、外フィルム 2 の長手方向端部から一部がはみ出すように外フィルム 2 に貼着される。なお、シール部材 6 は、棒状飯塊 7 を包装した後に貼着するようにしてもよい。

【0032】

なお、本実施形態では、図 3 に示すように、シール部材 6 には、ミシン目の如き断続的な 2 条の切条 6 4, 6 4 を形成し、これら切条 6 4, 6 4 間の切取り部 6 6 を切り離して、シール部材 6 を分断できるようにしている。なお、切取り部 6 6 には接着剤を塗布しなくても構わない。

【0033】

棒状飯塊 7 は、白米の塊、具材 7 8 を巻いたもの、かやくご飯などを棒状に固めたものであり、図示の実施例では周面 7 3 を断面略円形としている。棒状飯塊 7 は、三角柱状や四角柱状、楕円柱状等であってもよい。

【0034】

上記構成の包装シート 1 により、棒状飯塊 7 は包装される。

【0035】

より詳細には、図 3 に示すように、内フィルム 3 側を上向きにして、巻き始め端 1 2 側の端部近傍に棒状飯塊 7 を載せる。なお、被せフィルム 4 が内フィルム 3 を幅方向に横断するように形成されている場合には、被せフィルム 4 の上に棒状飯塊 7 を載せることとなる。

【0036】

次に、被せフィルム 4 は、図 3 中矢印 B で示すように、はみ出し部 4 2, 4 2 が、棒状飯塊 7 の端面 7 2, 7 4 を覆い、先端の垂れ止め 4 3, 4 3 が棒状飯塊 7 の周面 7 3 に被さるように折り返す。

【0037】

被せフィルム 4 は、棒状飯塊 7 の端面 7 2, 7 4 よりも内側で内フィルム 3 のみに熱溶着 4 6、すなわち、被せフィルム 4 に熱溶着 3 5 を施さない構成にすると、はみ出し部 4 2, 4 2 は外フィルム 2 を引っ張ることはなく、また、被せフィルム 4 のはみ出し部 4 2, 4 2 により棒状飯塊 7 の端面 7 2, 7 4 を包んだときの皺を発生し難くすることができる。

【0038】

この後、包装シート 1 を棒状飯塊 7 の周面 7 3 に巻き付ける。包装シート 1 を棒状飯塊 7 に巻き付けた後、巻き終わり端 1 4 を包装シート 1 にシール部材 6 で止着する。

【0039】

上記によって、棒状飯塊 7 は、図 5 及び図 6 に示すように、包装シート 1 により包装されて、棒状包装飯塊 8 を得ることができる。

【0040】

得られた棒状包装飯塊 8 は、断面図 6 に示すように、垂れ止め 4 3, 4 3 が棒状飯塊 7 の周面 7 3 と巻き付けられた包装シート 1（本実施形態では内フィルム 3）によって挟まれた状態となる。垂れ止め 4 3, 4 3 は、被せフィルム 4 を二重に構成しているから、はみ出し部 4 2, 4 2 の他の部分よりも厚みを持っているから、棒状飯塊 7 と包装シート 1 との間でずれ難くできる。

【0041】

特に、垂れ止め 4 3 を熱溶着 4 4 により環状に形成した場合には、垂れ止め 4 3 の内部に空気が入り、さらに厚みを持たせることができるから、ずれ止めの効果がさらに高くなる。

【0042】

上記包装シート 1 によって包装された棒状包装飯塊 8 を、図 5 及び図 6 に示すように縦置きすると、棒状飯塊 7 は重力によって下方に移動しようとする。しかしながら、図 6 に示すように、棒状飯塊 7 の端面（本実施形態では下側の端面 7 2）は、被せフィルム 4 の

10

20

30

40

50

はみ出し部４２によって覆われており、はみ出し部４２は、先端に形成された垂れ止め４３が、棒状飯塊７と包装シート１との間にずれることなく挟まれている。このため、棒状飯塊７が下方に垂れてしまうことを防止できる。

【００４３】

なお、被せフィルム４を内フィルム３に熱溶着３５している場合には、棒状飯塊７の端面７２，７４近傍で被せフィルム４が浮いてしまうことがないので、棒状飯塊７は被せフィルム４から滑り難く、より効果的に棒状飯塊７の垂れを防止できる。

【００４４】

棒状包装飯塊８を縦置きできることで、棒状包装飯塊８を手にとらずとも上から視認することで具材７８を確認できる。また、縦置きできることで、陳列台と接触するのは、包装シート１の端縁だけとなる。従って、横置きで陳列する場合に比べて、陳列台との接触面積を小さくすることができ、また、陳列台が濡れていても、シート状食品５は、陳列台から離れているから、湿ってしまうこともなく、衛生面でもすぐれる。

【００４５】

上記のように垂れ止め４３を設けた本発明の棒状包装飯塊８と、垂れ止めの形成されていない包装シートを採用した棒状包装飯塊（比較例）を共に載置台に縦置きしたところ、比較例は数時間ではみ出し部が棒状飯塊７に押されてずれ始め、その後、棒状飯塊７は載置台に接触するまで垂れていた。

【００４６】

一方、本発明の棒状包装飯塊８は、数日間縦置きしても棒状飯塊７は垂れることはなかった。従って、上記した効果を長期に亘って維持できる。

【００４７】

上記棒状包装飯塊８の包装を解くには、まず、シール部材６の切取り部６６の端部を摘んで引っ張り、シール部材６を分断する。そして、図７に示すように、包装シート１を巻き終わり端１４側から展開する。

【００４８】

包装シート１を展開した後、巻き始め端１２側の包装シート１を棒状飯塊７を掴むように外側から握り、図８に示すように、巻き終わり端１４側の包装シート１を図中矢印αで示すように引っ張ると、包装シート１は、巻き終わり端１４側の既に分断された外フィルム２とこれに熱溶着３５された内フィルム３のフィルム片３２が一緒に引き出されて、シート状食品５の略半分が露出する。

【００４９】

その次に、露出したシート状食品５の上に棒状飯塊７を転がし、シート状食品５の上から棒状飯塊７を掴みつつ、図９中矢印βで示すように残りの外フィルム２と内フィルム３のフィルム片３１を引っ張ることで、シート状食品５が完全に包装シート１から引き出される。その後、シート状食品５を棒状飯塊７に巻き付ければよい。棒状飯塊７は、垂れ止め４３により垂れることなく維持されているから、シート状食品５を巻き付けるときにも、シート状食品５が棒状飯塊７に対してずれて巻き付けられることも防止できる。

【００５０】

上記説明は、本発明を説明するためのものであって、特許請求の範囲に記載の発明を限定し、或いは範囲を限縮するように介すべきではない。また、本発明の各部構成は、上記実施例に限らず、特許請求の範囲に記載の技術的範囲内で種々の変形が可能であることは勿論である。

【００５１】

なお、上記実施形態における包装シート１の構成は一例であり、たとえば、分断可能部２１の構成や位置、展開方法などは上記実施形態に限定されるものでないことは勿論である。

【００５２】

また、外フィルム２、内フィルム３、被せフィルム４は、透明フィルム、着色フィルム、エンボス加工を施したフィルムなど種々選択することができる。

10

20

30

40

50

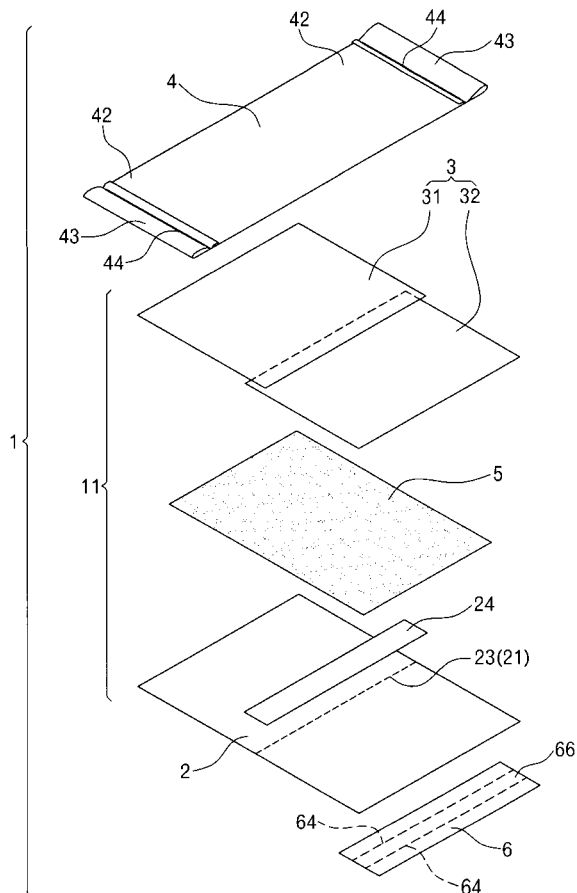
【符号の説明】

【0053】

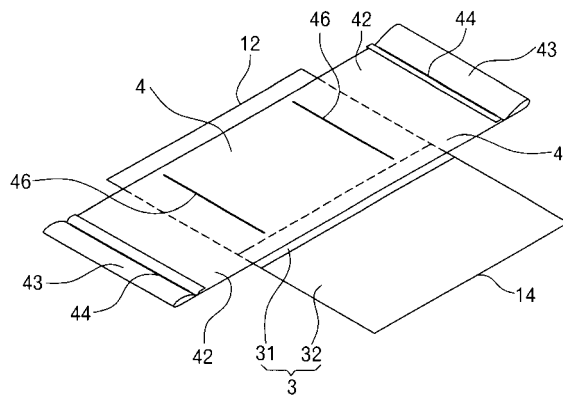
- 1 包装シート
- 11 シート本体
- 2 外フィルム
- 3 内フィルム
- 4 被せフィルム
- 42 はみ出し部
- 43 垂れ止め
- 5 シート状食品
- 7 棒状飯塊
- 8 棒状包装飯塊

10

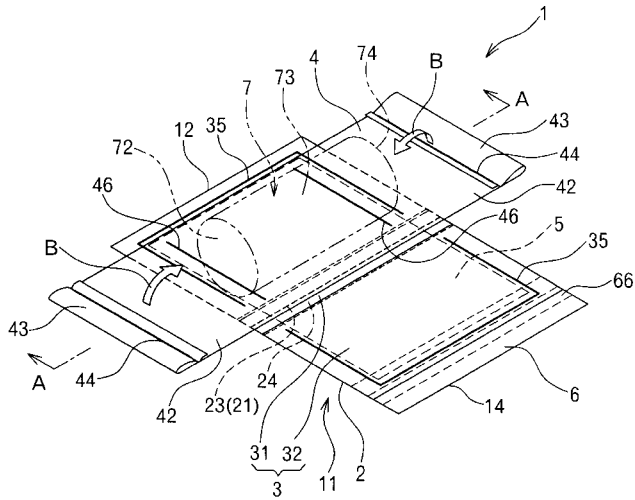
【図1】



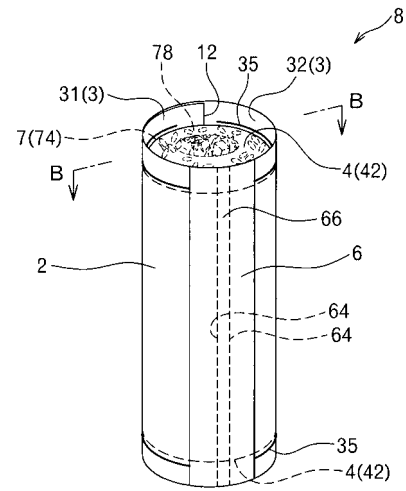
【図2】



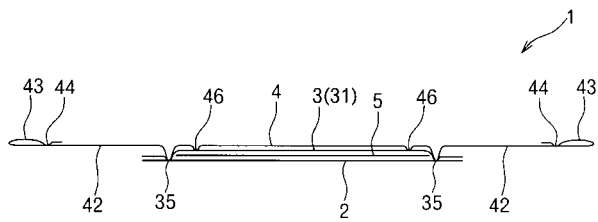
【図 3】



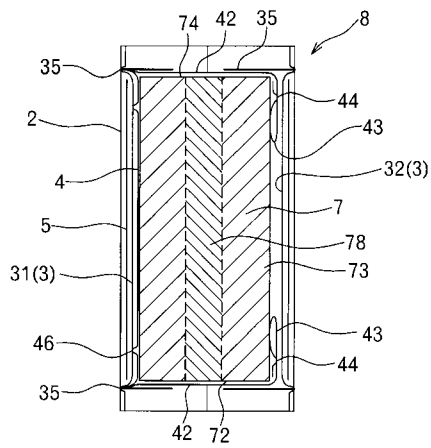
【図 5】



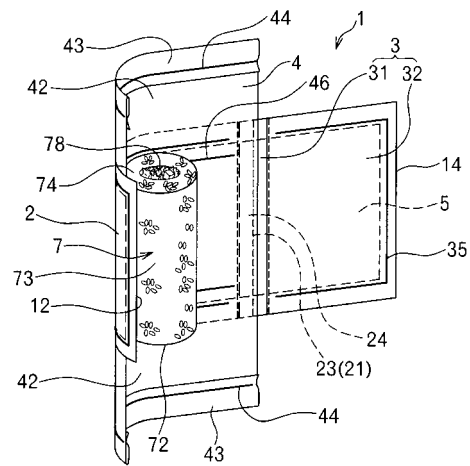
【図 4】



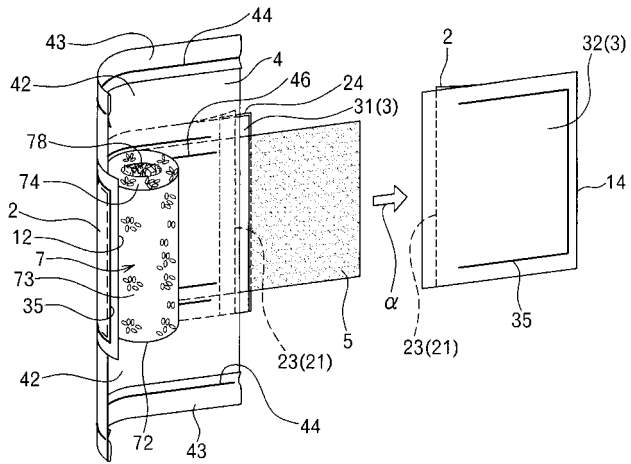
【図 6】



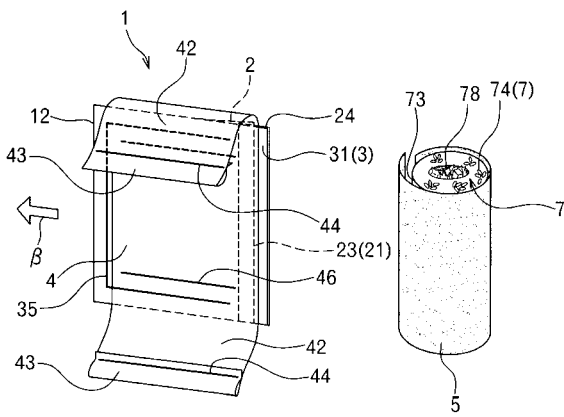
【図 7】



【図 8】



【図 9】



フロントページの続き

(74)代理人 100100114

弁理士 西岡 伸泰

(72)発明者 鈴木 允

大阪府寝屋川市八幡台 1 1 - 2 9

(72)発明者 鈴木 栄一

大阪府寝屋川市八幡台 1 1 - 2 9

Fターム(参考) 4B023 LE15 LE16 LP18